

イクメンパパ

育児はフィフティ・フィフティだから「パパ」にも積極的に

30人中「パパ」は僕ひとり

夫婦のあり方や幸せを考えるNPO法人の理事長を務めるほか、妻とともに、婚活イベントや女子力アップスクールなど、女性の幸せを応援する会社を運営する長岡さん。講師活動やメディアへの出演など幅広く活躍する妻のマネージャーとしての役割も担っています。

そんな長岡さんのもうひとつの役割が、今年1歳になる娘のパパ。「家事も育児もフィフティ・フィフティ」

NPO法人「日本教育福祉振興支援協会」理事長 長岡武司さん



「ママがさまざまな自治体や団体で、パパを対象とした勉強会などが開催されています。まずはそのような場に参加してみたいかがでしょうか。パパ友をつくるきっかけになるかもしれません。」

「ママがさまざまな自治体や団体で、パパを対象とした勉強会などが開催されています。まずはそのような場に参加してみたいかがでしょうか。パパ友をつくるきっかけになるかもしれません。」



「日々かわいさが更新されていきます」と愛娘にメロメロの長岡さん

江東のひと

イクメンパパに仕事と育児を両立するための秘訣を、そして、区内の働く女性に仕事への熱意とこれからの目標について伺いました。

「ママがさまざまな自治体や団体で、パパを対象とした勉強会などが開催されています。まずはそのような場に参加してみたいかがでしょうか。パパ友をつくるきっかけになるかもしれません。」

祖母と母に憧れて教師の道へ

江東区立第二亀戸中学校の校長を務める長南さん。区内の公立中学校で唯一の女性校長でもあります。そんな長南さんが教師を志したのは、「ご家族の影響でした。」祖母も母も学校の教師をしており、「生涯働き続ける姿に憧れ、私も祖母や母のような教師になりたいと思いました。」

理想の教育を実現するため、校長として「わたくし」と向き合う日々

働く女性

江東区立第二亀戸中学校 校長 長南良子さん



「ママがさまざまな自治体や団体で、パパを対象とした勉強会などが開催されています。まずはそのような場に参加してみたいかがでしょうか。パパ友をつくるきっかけになるかもしれません。」



生徒自らが考えた生徒会スローガン

現在は東京都教育委員会から人権尊重教育推進校の指定を受け、校長は、自分の理想とする教育を実現できる立場にあります。

区内企業に見るワーク・ライフ・バランスの取り組み

女性社員の2割以上が産休・育休制度を活用

gCストーリー株式会社



事業推進部 藤田里菜さん

「充実した制度とあなたが「風土」」
各種施工における職人と企業を結ぶ事業のほか、介護、ヘルスサポートなど幅広い事業を手がけるgCストーリー株式会社。社名のg(growth)・成長とC(Contribution)・貢献)が表すように、人や社会に貢献するため自ら成長することを企業理念としています。今回は同社の人事を担当される大嶋さんと、産休・育休取得者第1号となられた藤田さんにお話を伺いました。



事業推進部 人事グループ 大嶋かなえさん

「藤田さんが妊娠されたとき、当時の人事担当者が先進的なワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる企業を訪ねて産休・育休制度にまつわる情報を集めました。そして、法定では最長1年半のところを当社では2年間、さらに条件付きで最長3年間という産休・育休制度を設けました。また、復職後の時短勤務制度も小学校入学まで長期にわたって利用することができ、産休・育休において課題となるのがスムーズな復職。それを払拭しているのは「制度」ではなく「風土」でした。「社員同士の仲が」ともよく、育休中の社員がごもオフィスへ遊びに来たりするんです。育休中でも月80時間までは働くことができますので、ママが仕事をしている横で、ごもが宿題をしているなんていう光景もよく目にします。だから復職も非常にスムーズですね。約30名の女性社員のうち6名が育休中(9月現在)であり、さらに2名が産休を控えているという同社。2018年の「働きがいのある会社」女性ランキングの「小規模部門」で第1位に輝いた今も、働きやすさへの追求は続きます。



育休中の社員の「出社」も大歓迎!